2024年8月　第24号

かざぐるま通信

発行：社会福祉法人いこま福祉会　発行責任者：理事長　浅井伊知人

もうすぐパリオリンピックが開催されます。外に出ることも憚るような酷暑の真っ只中、激しいスポーツをすることなど到底想像もできないのですが、アスリートたちの満ち溢れたエネルギーが世界から集まり競い合うことで生まれる新たな物語に心がときめきます。

折も最中、2018年に白血病を患い、その後の治療から見事にカムバックした水泳の池江璃花子選手の特集がNHKで放映されていました。トレーニングに懸命に取り組む姿に誰もが感銘を受けたことでしょう。それにしても改めて凄いと感じさせられたのは、彼女の泳ぐフォームがとてもきれいなことです。衰えた筋力をカバーする天賦の才がやはりあるのかなと素人ながら感じさせられました。

野口体操を皆さんはご存じでしょうか？創始者の野口三千三氏は1914年生まれ。学校の先生として子ども達に体育の指導をされていました。戦争中の無理がたたり仕事が続けられない程の腰痛症を患い、それを機に自分のからだについて考え見つめ直して、独自の体操論を創り上げていかれました。

私が脳性麻痺の子どもの療育にたずさわっていた40年以上前に先生の書かれた本と出会い、そのお考えに触れる機会を得ました。野口体操を敢えて短い言葉で表現するならば、重力に逆らわないからだのあり方、活かし方を探ることです。その為には、重力を感じ取る感覚と無駄な力みを捨てて脱力の感覚を磨くことが大切で、その体操論は日本の古武道に通じるような印象を受けます。武道においても達人の域になると筋力に頼らず、その動きにしなやかさが際立つと言います。冒頭に池江選手のフォームがきれいと述べましたが、水力に逆らわないそのしなやかな動きは、まさしく達人のものなのかもしれません。

それまでは解剖学や運動生理学等の医学的な視点からしか運動を捉えていませんでしたが、先生の体操論は新たな視点を私に芽生えさせてくれました。実際の療育の中で子ども達がからだの動きをイメージしやすいように音楽や遊びの要素を取り入れて運動課題を行ったり、呼吸法を取り入れたりしました。能動性や自分への気づきも先生が大切にしていることです。

教育者である野口先生は自分のからだを通して、教育論や哲学、人間論として多くの人々に影響を与えてきました。そして私も先生の言葉を新人職員の研修会で必ず引用させてもらっています。

『人は相手を「理解」したと思った瞬間から「誤解」が始まる。』何故ならからだの離れた者同士が完全に理解することは不可能だから。そして『その誤解に基づいて意見をもつことは一方的な「偏見」となり、』その『偏見から生じる「判断」はあなたの「独断」でしかない。』　うろ覚えで原文は忘れてしまいましたが、職員には「理解」は「誤解」の始まり　「意見」は「偏見」「判断」は「独断」と伝えます。他者に自分の思いを伝えることが苦手な障がい者の支援にたずさわっている私たちは、「正しい」「理解した」と感じた時に本当にそうなのか自分自身を疑い振り返ること、自分が支援している姿を俯瞰する力が必要です。そしてこのことは、対人支援のみならず、組織を動かしていく際にも求められます。

「柔らかさとは、次の瞬間における変化の可能性の豊かさである」（野口語録）

しなやかさを纏い今後の事業運営に取り組んで参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

理事長　浅井　伊知人

令和5年度事業報告より

Ⅰ．日中活動部門

令和5年度の日中活動部門では、新型コロナウイルスの5類移行により、今まで制限がかかっていた多くの活動が再開し、出店や日帰り旅行、地域とのイベント等が飛躍的に増えることとなった。各事業所の生産活動も新商品の開発や、増産、販売機会等の増加により売上をコロナ禍前の状態に近づけていくことができた。

支援においては、高齢化や介護のニーズも高まる中、ひとりのメンバーが亡くなり、別れを惜しむこともあった。介護に関わる研修等や介護用具の導入なども行い、メンバーの機能維持や安心安全な介護、支援を学ぶ機会を増やして今後の支援に生かせる環境整備や学びの機会を持った。

年度末にかけては、今後の受け入れ体制の整理やメンバーの適性に応じた活動班の見直しを図り、新年度に向けて事業形態の変更や班異動の実習、準備を行った。

農業プロジェクトでは、森田福祉記念財団のお声がけにより、ひとり親世帯へ直接野菜を届ける「奈良のとれたて野菜デリ」の企画に参画し、袋詰め作業や梱包作業をメンバーが主体的に行った。より多くの野菜を届けられるよう、作付けの品目の検討や風のファーム以外の畑の野菜も取り入れるようにして取り組んできた。

Ⅱ．　居住部門

昨年10月に福祉ホームメンバーがご逝去され、初めての看取りとなった。当事者の覚醒レベルが低下して意思確認が困難になっていくなかで、特に健康維持に大切な３つの機能「食べる」「寝る」「排泄」の高いクオリティーをもった支援について日中・居住部門と看護師・管理栄養士と協議してきた。例えば、本人の好きな食べ物を食べやすい形態で、快適な眠りには日中を含めてどの時間にどのような姿勢で、排泄にはトイレへの移乗のタイミングやおむつの使い方等を安全性も重ねて議論を行った。医療面での不安は日々感じていたが、往診等による地域の医療機関の協力を得られたことはとても大きく、支援者側にとって安心感を生み今後の高齢化への対応では欠かせない条件であることも再度認識させられた。
それ以外の利用者においても健康問題は大きなものになりつつある。医療機関との関係は今後も更に強化していかなければならない。
また家族力の低下もあって、年々週末や長期休みにホームで過ごす利用者も増えてきている。余暇の充実を図る為にも人材の獲得や職員体制の工夫も今後更に必要となってきている。

日本財団の補助金申請では不採用となったため、次年度以降に小瀬のグループホーム建設計画は延期となった。建築コストや職員配置等の要素も考慮して、現在の居住機能の再編成を行う。

Ⅲ．地域生活部門

余暇活動や外出の機会も増えてきた中で、余暇に関わる個別支援のニーズが高まっている現状があった。ご本人・ご家族ともに高齢化が進む中、ご家族の入院や急な通院等により緊急対応が必要なケースも多く見られ、ご本人のサポートを急遽行う場面も増えており、ニーズに十分に対応できない日もあった。

また、相談支援においては相談実績の増加に伴い、対応すべき生活のしづらさが多様化し、様々な他機関と連携する場面が多かった。また、学齢期から20代の年齢層で福祉サービスの利用に関わらず日々のしんどさを相談したいと来られるケースが増えており、居場所や人との付き合い方等のフォローを求める声が多かった。一年を通して、様々な個々のニーズに触れ、できる限り地域の中でそのニーズを叶えられるよういろいろな関係機関等と連携し、動くことができた。特に、高齢化による家族機能の低下に伴いご自宅での生活が難しくなるケースや、家族間の不和によって日常生活に影響が出ているケース、学校とのやりとりや学齢期の行動の激しさに介入が必要なケース等が目立っていた。また、ご本人だけでなくご家族に生活のしづらさが見られる場面も多く、多角的に課題を捉えて対応する必要があった。

相談件数は、前年と比較して1,328件増加している。一昨年から比べると3,883件の増加となっている。対応に苦慮するケースも増えており、各関係機関に協力を仰ぐほか、部署内の相談員同士が協力してケアに当たる場面も多かった。

令和6年事業計画より

Ⅰ．日中活動部門

令和6年度からはムーランを就労継続支援B型から生活介護へ、工房結に生活介護を新たに加えるという事業形態の見直しを行いスタートする。メンバーの活動班の異動や新規通所者も加わり、合計112名で活動を行っていく。

メンバーの身体状況や障害特性にも配慮し、必要な環境を整備することで“安心感”や“やりがいや自信”を持って仕事や活動に参加してもらえるよう取り組んでいく。

農業プロジェクトでは、昨年土壌病や暑さなどから一部の作物が不作だったことを踏まえて、対策を講じ安定した野菜の収穫が行えるように取り組む。また、昨年からスタートしたひとり親の方へ宅配事業「とれたて野菜デリ」に令和6年度も参画する。加工品については収穫した野菜やつながりのある外部事業所等からの原材料の仕入れにより、計画的な加工品の製造を実施する。

働くプロジェクトでは、法人の生産活動における売り上げ増加、工賃向上に向けた検討を行う。また、売り上げ以外にもメンバーが活動や仕事をしている中でやりがいや自信を感じられるような機会を提供する。

Ⅱ．　居住部門

高齢化・重度化に伴い生活支援へのニーズや関心は高くなっている。意思決定支援や介護技術など支援の質が求められている中で、人材確保は十分とは言えない。そういった中でも継続して研修計画を検討し、外国人スタッフの雇用やメンバーの体調管理やより良い支援を目指すためにICTを上手く活用しながら人材不足の課題を解決していく。

暮らしプロジェクトでは、小瀬新規グループホーム開所に向けて、ここからの5年間とそれ以降では生活支援を緊急的に必要とされる年齢層も異なることが想定される。そのため、今ある生活支援の拠点を含めて、介護を行いやすい拠点・障害特性に応じた拠点について再度検討計画を行う。

Ⅲ．地域生活部門

余暇支援においては、コロナ禍の反動もあって、余暇支援や外出のニーズが高い。地域の中で安心して外出できるような仕組みを確立したいが、地域資源の量も質も十分ではない現状がある。少しでも地域での暮らしに彩りが増え、余暇の充実につながるよう、支援体制の強化に努めていく。

相談支援においては、障害の程度や特性だけで判断できない、生活のしづらさを抱える当事者の方々に対して、それぞれのニーズを丁寧に汲み取りながら家族背景や生活全体を踏まえた包括的な支援の組み立てが必要である。また、ご本人の意思決定支援を大切にし、ご本人の意見やニーズを支援の中心に据えながら、自分のことを自分で決めたり選んだりする場面を重視していく。そして、この地域で安心して生活できる環境を整えていくために、障害分野のみならず様々な関係機関と連携し、地域の中で支援の必要な方々を包括的にサポートしていける面的な支援体制の構築を目指していく。

日中活動部門より

かざぐるま、ゆうほ～所属長　大谷　健太郎

　令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類の取り扱いへと移行し、日中活動でも、どこまで感染対策を緩めていくかを悩みながらスタートした1年でした。
　世間一般的にイベントなども通常通り実施されるようになり、日中活動でも地域との関わりや繋がりを例年以上に持つことができた１年となりました。

　再開した活動のひとつに、各事業所に分かれて4年ぶりに日帰り旅行を実施したことが挙げられます。メンバーさんはお土産を買ったり、バスでカラオケをしたり、各々が久しぶりに楽しい時間を過ごされました。こうした余暇活動が日々のお仕事の励みにもなって、より一層毎日の活動が充実したように思えます。

京都市　京都水族館

枚方市　ひらかたパーク

吹田市　ニフレル

堺市　ハーベストの丘

　地域交流では、近隣の小学校、高校との交流の機会や中学生の職場体験の受け入れ、施設見学で地域の方が来所される機会もたくさんありました。
　壱分小学校との交流では昨年に引き続き、今年の7月に壱分小放課後クラブに参加させていただきました。約30名の児童に紙漉き体験ではがきサイズの紙を作成してもらいました。牛乳パックの紙からハガキができるまでの工程を体験してもらい、みんな興味津々で一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

　また、今年に入り、アルミ缶回収ボックスを置いてくださっている自治会の方から見学のご要望をお受けすることもありました。アルミ缶は、地域の様々な方にご理解とご協力をいただいて、生駒市内の各所にかざぐるま専用のアルミ缶回収ボックスを設置させていただいており、メンバーさんがアルミ缶を回収したり圧縮したりと、長く継続して取り組ませてもらっているとても大事なお仕事です。
　見学に来てくださった方は、普段アルミ缶を回収してもらっているが、どのようなお仕事につながっているのか、どのように役に立っているかが知りたいとのことでした。自治会の中でも若い世代の方はアルミ缶回収ボックスを置いている理由がわからない方もいるとのことで、その意味などもしっかり伝えていきたいと話してくださいました。
　長年続けさせてもらっているアルミ缶回収のお仕事も、当たり前ではなく、こうしたご理解のもとに成り立っていること、そしてその意味を私たちもしっかりと発信しなければならないことだとあらためて感じる機会となりました。

　イベント関係では、昨年度あらたにひよりを中心とした竹のワークショップを開催しました。高山の名産でもある竹から「メンマ」の製品化に着手し、そのメンマの原材料となる幼竹を採取し、子どもたちと一緒に“竹の魅力を発見しよう！”というイベントを実施しました。いこま里山クラブの皆様のご協力もあって、イベントは申し込み開始からすぐに定員が埋まり、大盛況となりました。このイベントを通じて、竹林整備という地域課題にも向き合い、竹の整備に関わる人達がひとりでも多くなることを願って、竹の魅力を伝えさせてもらいました。
　令和5年度はここには紹介しきれないほどのイベントや行事があり、たくさんの方との出会いや喜びが詰まった1年間となりました。

　一方で、令和6年度は障害福祉サービスの報酬改定が行われ、私たち福祉事業所の運営にも大きな影響を与える改定となりました。制度の変革にも対応しながら、現場ではメンバーさんの活動内容や、班活動の編成見直し、事業形態の変更にも取り組みました。関係者間での話し合いや実習を通して、メンバーさんがよりよい環境の中で、ご自身の力を今以上に発揮してもらえるためにはどうしたらいいかを悩みながら、実習での表情やご様子も見て進めてきました。また、年を重ねるにつれて、身体機能が少しずつ衰えてこられた方には、環境を整えて介護器具を導入したり、食事形態の見直し、介護技術の研修などを通じて、安心安全に1日の活動を送っていただけるように取り組んできました。
　新しい体制の中で不安も感じながら、令和6年度のスタートを切りましたが、約半年が経過して今では各メンバーさんが元気よく活動に参加してくださっている様子が見受けられています。今後はさらに、「意思決定支援」ということをテーマに掲げ、メンバーさんの意思表出や想いを探る支援、臨床心理士さんによる発達検査から本人の特性を探る機会なども取り入れ、メンバー自身の想いを少しでも実現できるように日中活動を展開していきたいと思っております。
　まだまだ未熟な点も多いですが、メンバーさんが主役になって自信とやりがいを感じながら、たくさんの経験を積み、選択肢が広がっていけるように取り組んでいきたいと思っております。

2024年8月 第24号

生活支援センターより

生活支援センター所属長　高曲　友理子

7月の連休明け、支援センターの玄関前でかわいい声を聴かせてくれていたツバメちゃん4羽が巣から飛び立ちました。毎日のように「あぁ～大きくなってる♪」「かわいいなぁ！」と私たちや来客者を癒してくれたツバメちゃんたち。かわいい癒しをありがとう！(^^♪また来てね！！

さて、支援センターは昨年度に引き続き、兼務含め、相談員6名・事務員2名でスタートしました！生駒市内にお住まいの、知的に障害のある方や生活のしづらさのある方々の生活全般にわたるお手伝いをさせていただいています。少しずつケース数が増え、現在は、中・高校生から80代まで、400名を超える方々とつながっています。長らく自宅から出ていない、職場でしんどさを感じている、学校卒業後の進路が不安…など、いろいろなお話を聴きながら、その方の生きてこられた背景や人生の物語に触れ、ご本人やご家族が少しでも楽しく、少しでも快適に生活できるよう、試行錯誤しながら対応しています。

みなさんは、『意思決定支援』という言葉を聞いたことはありますか？
自分の気持ちをうまく表現できない人や、言語で伝える力はあるけど雰囲気に流されて希望と違うことを言ってしまう人、表現しているけれど周りの支援者がそれを十分汲み取ることが難しいケースなど、障害特性も生活状況も様々な中で、いろいろなケースがあります。障害特性により意思の確認が難しい方については、私たち支援者がご本人の前後の様子や表情、行動等から想像してご本人の意思を汲み取る作業をします。ご本人の一つの選択になるのだから、とても重要な役割です。責任重大だなぁと最近特に実感しています。だって、自分の気持ちって自分にしか分からないのだから。それをうまく言えない、伝えられない、分かってもらえない…って、結構ストレスだと思うのです。だから、できるだけ、その時のご本人の真の気持ちを汲める、それぞれの生きてこられた背景を理解して大切に想える事業所でありたい、そう努めたいと思っています。

今年度は、料理教室や余暇的なイベントの開催も、順次実施予定です。この7月には、若いメンバーたちから「友達を作りたい！」「同年代の人と仲良くなりたい！」という声を受け、『働く（働く準備中の）アンダー30歳のBBQイベント♪』を開催することになりました。障がいがあってもなくても、お互いの弱いところをフォローし合えたら、それでOK！！　このイベントが、みんなをつなぐひとつのきっかけになればいいなぁと願っています。
また、昨年から再開した料理教室は、少人数制に変更し、卵焼き・ワンパンパスタ・ジャージャー麺など、毎回一人でも簡単に作りやすいメニューを設定しています。毎回、和気あいあいと、何とも楽しい時間です！参加してくれた皆さん、お家でぜひ作ってみてくださいね！

昨年のBBQイベント『しゃべり場♪

料理教室（ワンパン　ナポリタン！）

そんなこんなで、今年も支援センターはみんなで力を合わせてがんばります！　お近くに来られた際は、ふらっと立ち寄ってください！　どうぞよろしくお願いいたします。

2024年8月　第24号

ホームより

ホーム所属長　面松　大介

久しぶりのイベントを楽しみました！

　ゴールデンウイークにコロナ以降、久しぶりのイベントを行いました。女性GHは、お祭りイベントで、たこ焼きやフランクフルト、アイス等の食べ物屋台の他に、お菓子釣りやスーパーボールすくいの遊び屋台もあり、大いに盛り上がりました。ミャンマー人のスタッフやメンバーさんが浴衣やはっぴを着てお祭り気分を楽しまれました。
　男性GHは、BBQを行いました。天気も良く皆さん楽しそうに焼きたてのお肉やおにぎり、デザートをお腹一杯食べて、大満足な1日となりました。
 福祉ホームは男女合同でBBQを行いました。施設の屋上でする予定でしたが、あいにくの雨模様で、テラスにBBQコンロを置き、南食堂で食事を楽しむことになりましたが、それでも皆さんお腹一杯食べて満足されていました。

能登半島地震の被災地応援に職員を派遣

　6/14～19まで5日間、ホーム職員1名の派遣を行いました。派遣された石川県精育園（障害者施設）は、穴水町にあり、施設も被災したため、重度の方は他県の施設で別々に受入れられ、その他の方は錦城学園に場所を借りて生活されていました。
　実際に応援支援に行ったホーム所属の大西職員に、派遣先の施設のこと、利用者さんのこと等について話を聞きました。

穴水町の被災状況はどうでしたか？

大西：穴水町の被災状況は廊下が真っ二つに割れたり、大きい揺れで上の物が沢山落ちてきたそうです。被災当初から精育園に避難して良いと声がかかっていたとのことですが、職員も理由は分からないそうですが最初は断っておられたらしいです。

被災時の利用者と職員の状況はどうでしたか？

大西：パニックになられる利用者もいたそうです。廊下が割れたことで横断も出来ず、利用者の御家族が外にお風呂を作ってくれて、そのお風呂を使い少しの間は生活していたとのことです。 私が派遣で行った時には、職員は連休を取ることが出来ていました。実家まで近い人で車で2時間かかるようで、連休を取らないと実家に帰れないとおっしゃっていました。

地震から半年が経過していますが、状況は変わってきていましたか？

大西：利用者の方から地震の話をして下さいました。廊下が割れた、友達と離れ離れになった等お話を聞かせて頂き、いつ戻れるかは分かりませんが、職員も利用者も前を向かれているように感じました。

派遣に行く前後での、大西さん自身の感想または印象を教えてください

大西：派遣で行く前はもっと地震の跡があったり、地震によって崩れた物の掃除等あると思っていました。でも被災地から離れ、精育園では災害の跡はなかったです。皆さん自分のことは自分でして、いつ元の場所に戻れるかも分からず、家族とも別々になり、不安はあると思います。職員からは、私たちが派遣で行くことで利用者の話す機会が増えたと言って下さいました。派遣に行って出来る支援は限られていますが、まだまだ支援は必要だと感じました。

居宅部門より

デイケア所属長　伊藤　貴訓

社会福祉法人菜の花会の施設を見学

5月22日と6月26日に二回に分けて、小瀬のグループホームに関わる職員を中心に、千葉県にある社会福祉法人菜の花会の施設を見学してきました。小瀬のグループホームに関わってもらっている株式会社ゆう建築設計が携わられた施設です。

今回は、30年以上暮らした入所施設からの移転で新たに新築された施設「ゆめふる成田」を重点的に見せて頂きました。「ゆめふる成田」その名前の由来は「夢が降る・フル（満タン）」だそうです。25,402.41㎡の敷地に40名定員の住まいと20名定員の生活介護を、延べ床面積3006,65㎡で建築されています。

40名の入所の方々への住まいを春・夏・秋・冬の4棟8ユニットに分けて大よそ6名ずつの住まいの場として設計されています。どの部屋も個人を尊重した「快適さ」が追及され、障害特性にも合わせた生活空間を作られていました。各居室の大きさも畳14畳と通常の施設基準の6畳を倍以上上回る広さでした。

転居という事もあり、入居者が決まっていた中で「個室帳」なるものを作成し、遮音性、内装材、建具、洗面、トイレなど住まいに欠かせない項目を各々の入居者毎にチェックして工夫を施されていました。

カーテンを気にされる方は窓を二重サッシ（写真１）にしていたり、照明のスイッチを気にされる方はキーを差し込む形の物（写真２）に変えていたり、窓の高さや床の材質（写真３、４、５）・トイレ（写真6）の有無等同じ居室は一つとありませんでした。また、生活導線等も意識して、他の方の行動が気になってしまわれる方の居室には専用玄関（写真7）を作られる工夫もされていました。

まさしく人が建物に合わせるのではなく、建物が人に合わせるという考え方での建築の工夫と入居者の障害特性の把握が行き届いた建物でした。

見学のほかに支援方法についてや、建設から開所までのエピソード等もお聞きすることが出来ました。また、高齢化に伴う機能低下等がある中で、何かあった場合に状況把握が出来るように各居室に見守りカメラ（写真8）を設置されていたりと、目的を持った中で福祉機器も導入されていました。

これからも小瀬の建設に向けて、建設上の工夫や支援上の工夫をされている施設を見学させてもらい、メンバーの方々が安心安全に生活してもらえる空間を作ることが出来ればと思います。

写真1

写真2

写真3

写真4

写真5

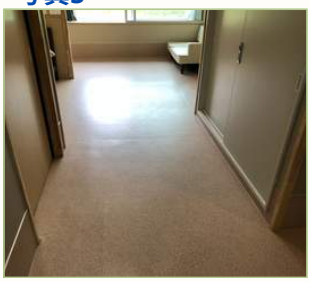

写真6

写真7

写真8

２０２４年８月　第２４号

新人紹介

2024年度4月以降入職の職員（常勤、嘱託、特定技能生）の紹介

綱木　麻衣（つなき　まい）

部署：笑風班　入職日：2024年4月1日

４月から笑風班の担当になりました綱木です。まだまだ未熟ですが、先輩方からたくさんのことを学ばせていただいています。利用者様の笑顔や楽しそうに活動されている姿を見ることが私のやりがいです。皆様から信頼してもらえるような職員になれるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

登丸　はるな（とまる　はるな）

部署：福祉ホーム　入職日：2024年4月1日

4月から外国人職員・アルバイトの方達のサポートをしています。皆さん約1年ぐらい母国で日本語を勉強して来日し、仕事に励んでおられます。（現在、ベトナム人1人、ミャンマー人8人）皆さんが言葉の壁を越え、文化の違いも楽しみながら仕事や生活ができるよう支えていけたらと思います。よろしくお願いいたします。

ミャンマーからの特定技能生

＊皆さん一生懸命日本語で書いてくれました。
ほぼ原文のまま掲載しています。

ミャンマーはどんな国でしょう？
ユさんが教えてくれました！

ミャンマーはとてもきれいな国です。山も森もうみもたくさんあります。のうぎょうが主な仕事です。きちょうなほうせきが多く産出されていますから“ゴールデンミャンマー”とよんでいます。
他にもみりょくてきな場所もたくさんあるので、チャンスがあれば皆も遊びに来てください。

ユ ライン ティン

部署：グループホーム　ポピー　入職日：2024年4月20日

家族は5人います。おかあさんと姉一人と兄二人と私です。大学を卒業しました。専門はれきしです。2024年3月18日に日本にきました。1ヶ月の研修を勉強しました。いまも初任者研修を勉強しています。4月からグループホーム「ポピー」で働いています。最初の日から今まで先輩たちがいろいろなことを全部教えてくれました。最初は仕事場でよくできるかできないか心配な事があったのですけど、皆さんのおかげさまで仕事場でよくできるようになりました。もっと上手になるように頑張ります。

カイン　タジン

部署：福祉ホーム　入職日：2024年4月20日

3月から日本に来て１ヶ月間の研修を受けて、４月19日にいこま福祉会の仕事は初めました。まだまだ不慣れないことも多いですが、早く仕事に慣れるように、一生懸命頑張ります。皆様がやさしく教えて下さるので、楽しく仕事が出来ています。これからもよろしくお願いいたします。

カイン　プイン　ピュー

部署：かなで班・福祉ホーム　入職日：2024年4月20日

2024年3月18日に日本へ着きました。介護について研修に1ヶ月出席しました。4月19日にかざぐるまへ着きました。4月20日からかなで班に入職しました。１しゅうかん1回とまりをしています。利用者さんをかいじょするのがじょうずな職員になりたいですから、いっしょうけんめいがんばっています。これからもよろしくお願いいたします。

いこま福祉会　令和5年度決算報告（事業活動計算書）

(自)令和 5年 4月 1日(至)令和 6年 3月31日

(単位:円)

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	20,555,052	17,462,510	3,092,542
		障害福祉サービス等事業収益	652,452,824	640,921,244	11,531,580
		経常経費寄附金収益	4,098,353	5,736,876	△ 1,638,523
		サービス活動収益計(1)	677,106,229	664,120,630	12,985,599
	費用	人件費	418,805,378	417,007,639	1,797,739
		事業費	71,469,439	80,263,542	△ 8,794,103
		事務費	78,777,880	83,433,704	△ 4,655,824
		就労支援事業費用	31,035,583	31,694,288	△ 658,705
		減価償却費	44,665,432	52,108,569	△ 7,443,137
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 21,538,059	△ 25,601,668	4,063,609
		サービス活動費用計(2)	623,215,653	638,906,074	△ 15,690,421
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		53,890,576	25,214,556	28,676,020
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	27,835	27,286	549
		その他のサービス活動外収益	9,979,221	10,451,490	△ 472,269
		サービス活動外収益計(4)	10,007,056	10,478,776	△ 471,720
	費用	その他のサービス活動外費用	7,831,996	8,355,458	△ 523,462
		サービス活動外費用計(5)	7,831,996	8,355,458	△ 523,462
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		2,175,060	2,123,318	51,742
経常増減差額(7)=(3)+(6)			56,065,636	27,337,874	28,727,762
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	1,564,000	3,433,000	△ 1,869,000
		施設整備等寄附金収益	10,000		10,000
		特別収益計(8)	1,574,000	3,433,000	△ 1,859,000
	費用	基本金組入額	10,000		10,000
		固定資産売却損・処分損	4	6	△ 2
		国庫補助金等特別積立金積立額	1,564,000	3,433,000	△ 1,869,000
		特別費用計(9)	1,574,004	3,433,006	△ 1,859,002
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		△ 4	△ 6	2
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)			56,065,632	27,337,868	28,727,764
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		559,041,288	551,703,420	7,337,868
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		615,106,920	579,041,288	36,065,632
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)				
	その他の積立金積立額(16)		90,000,000	20,000,000	70,000,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		525,106,920	559,041,288	△ 33,934,368

たくさんのご支援ありがとうございました

（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

寄附金をいただきました（敬称略・五十音順）

相田　浄司
青木　和子
池端　照子
生駒市健康づくり推進員連絡協議会
生駒市障害児・者を守る連合会
生駒市身体障害者福祉会
生駒市手をつなぐ育成会
生駒市中地区
　民生・児童委員協議会
生駒市東地区
　民生・児童委員協議会
生駒市民生児童委員
　北第一民児協
生駒商工会議所
壱分町東自治会
壱分幼稚園（募金箱）
井戸　偉司
稲垣　正子
稲西　要
今村　祥二
岩藤　和夫
岩本　先
上田住宅設備
有働　満喜子
梅田　昭夫
梅本　順子
栄上会
大阪シティ信用金庫
大塚　啓二
大宮寺　真代
大山　泰子
オールサム(有)
岡田　敏夫
オカダアイヨン(株)
小川　睦美
加藤　正二
(株)ケイアイ
(株)上武
上武　勝宣
上武　建一
上武　敏一
上武建設(株)
川本産業(株)
関西電力労働組合
　奈良電力所支部
神田　昌則
岸田　久之
來村　懋勲
木全　和子
京和建設(株)
(株)きんでん
草場　美明
草場　暁美
窪田　俊造
公文　春子
クレセントデンタルクリニック
神津　育雄
こども発達支援MOMOの実
小西　壽美雄
コマツカスタマーサポート(株)
近藤　嘉男
齋藤　美樹子
酒井　洋幸
坂森　照美
桜井　明子
(株)ササイナカムラ
清水　泰之
下川　泰子
下竹　克美
白壁　学
鈴木商事(株)
鈴木商事(株)自動車部
角重機
住友建機販売(株)
関谷　弘臣
セレミューズ(株)
(株)総合サービス
(有)太鴻
髙枝　敏治
滝藤　博史
田口　真太郎
田口　節世
辻本　供代
辻本　蓉
永合　達生
中井　直美
中尾　初美
中嶋　恭子
中庄谷　勇
中菜畑2丁目自治会
中野　将太郎
中畑　雅享
中村　昭代
奈良信用金庫　富雄支店
奈良中央信用金庫　平群支店
奈良レミコン(株)
西浦　一次
西垣　孝
西元　素子
日本キャタピラー合同会社
日本料理　いなだ
根来　健夫
農業生産法人(株)鎌田ファーム
のぞみ信用組合　四条畷支店
畠中　隆子
早元　勇
坂東　伸昭
ひかりが丘自治会
　駐車場管理委員会
(株)樋口組
日立建機日本(株)
日野　紀代子
枚方信用金庫
ふうしゃの会
藤尾　清司
藤木　強二
桝田　健
松岡　藤枝
松川　定嗣
松下　重信
松嶋　千年
松本建材土木(有)
(株)丸松久保本店
水田　哲司
水野　恵理子
三谷　宏弥
峰　千賀雄
宮川　洋代
村上　勝美
森　正明
森永　由紀子
森本　洋子
安井　宏一
泰井　弓
安田　富雄
矢野　敏文
山岸　孝三
山口　慶治
山口　隆子
山口　知晴
山口　真知
山口　裕和
山田　正弘
大和信用金庫
(有)無限損保ライフ
(株)ヨコハマタイヤジャパン
横村　和宏
吉川　博好
吉澤　佳代子
渡部　昭子

物品をいただきました（敬称略・五十音順）

イオン登美ヶ丘店
上山　定子
岡山　大悟
落合　さゆり
草場　美明
セレミューズ(株)
中野　正弘
ネットワーク草の根
ハーヴ東生駒
速水歯科
山口　裕和

その他、たくさんの皆様から牛乳パック・アルミ缶等の提供をいただきました。

皆様の温かいお気持ちに心より感謝いたします

2024年8月　第24号

授産品の紹介

これが本当の美味しいメンマ（味付けメンマ）ひよりの塩漬けメンマ（塩漬けメンマ）

生駒市高山産の幼竹でつくる純国産メンマ。
今年はたくさん収穫ができたので、味付けメンマ、塩漬けメンマとして保護者、職員、一般店舗にも販売しています。味付けメンマはおつまみやご飯のおかずに。塩漬けメンマは塩抜きをしてお好みの味付けで召し上がってください。

ひよりの地域共生味噌

奈良県産大豆と米麹を使用し、生駒市健康づくり推進員協議会の皆様から、おいしいお味噌の作り方を受け継いで作ったこだわり味噌です。大豆の味が引き立つ手作りで無添加の懐かしい母の味がするお味噌をぜひ一度ご賞味ください。カフェのランチでも提供を行っています。

ブルーベリー

今年は三郷町にある事業所「ちいろば園」さんのブルーベリー農園でブルーベリーの収穫を行っています。
甘酸っぱくて大きな実のブルーベリーがたくさん採れています。昨年からひよりで製造しているブルーベリージャムやムーランで試作中のブルーベリーケーキ、ゆうほ～のランチなどでも提供できるようにしたいと思っています。メンバーさんの手摘みのブルーベリーを楽しみにしてください！

編集　〒630-0222　奈良県生駒市壱分町356-2　社会福祉法人いこま福祉会
TEL 0743-77-9900　　FAX 0743-77-6868
URL https://www.ikoma-fukushi.net/　Email ikm-fukushi@kcn.jp
編集責任者：面松　大介